

## 序

鍼灸医学は、古代中国で発祥した中国伝統医学です。我が国には562年、仏教伝来とともに伝えられました。平成24年(2012)には1450年になります。この悠久たる歴史の中で、日本の風土と文化、日本人の感性により、日本の鍼灸に改変され、今日に伝えられています。その意味において、日本鍼灸はまさに日本の伝統医学です。

近年、鍼灸を含めた伝統医学が注目されています。かつて同様に注目された時代がありました。それは、1970年代の薬害公害への批判から現代西洋医学に対して厳しい批判が起こり、その反動として漢方ブームが起こりました。加えて中国の針麻酔報道が世界を席卷したことにより、伝統医学への再認識・再評価が始まりました。それが代替医療、あるいは補完代替医療へと繋がったものと思われまます。

しかし、最近の伝統医学に対する再評価には、かつての背景とは異なり、高齢社会の到来と慢性疾患を中心とした疾病構造の変化、患者の権利等による要因が強く影響しているように思います。いわば、医学・医療への根源的な問いかけが底流にあるように思います。患者中心の医学、あるいは患者が主人公の医学、テーラーメイドの医学、補完代替医療を組み込んだ統合医療の台頭などは、現代西洋医学への批判を超えて新しい医療の形を創ろうする兆候とも見受けられます。

いずれにしても針麻酔報道を契機として、鍼に関する研究が欧米で精力的に展開されるようになりました。その結果、多くのエビデンスが蓄積され、中国、韓国をはじめとする東アジアの国々および欧米諸国では鍼灸を医療の最前線で用いるようになってきました。

一方、日本でも欧米と同様に鍼麻酔報道以降、鍼灸研究は活発になりました。そうした研究成

果を学会では、会員に届けるべき、色々な企画を組んできました。特に学術部主導によるセミナー「ここまでわかった鍼灸医学-基礎と臨床との交流」は、患者と最も身近に接している鍼灸施術者に“鍼灸治療は効くのか、効くとすれば何故効くのか”について、内外の研究成果を整理して提供することを意図して企画されたものです。本セミナーは、すでに10回以上を数えました。

そこで、これまでのセミナーの内容を単純明快な小冊子として作成し、会員の諸先生方に届けようと考え、作業を進めてきましたが、セミナー「ここまでわかった鍼灸医学-基礎と臨床との交流」の内容はあまりにも専門的であり、多岐にわたることから、単に整理するだけでは所期の目的を達成することができないと判断し、方針を変更して、必ずしもセミナーの内容にこだわらず、必要であろうと思われる項目を取り上げ、小冊子の形式でまとめてみました。編集は二人が担当していることから、偏った内容や記述があるかと思いますが、まずは作成し、発信することに意義があると考え、実行しました。

臨床現場では、鍼灸師が分かりやすく治療効果とその機序について説明することが、患者との良好な関係をつくる上でも、信頼される鍼灸師となる上でも重要な要素であります。この小冊子はそのことに少しでもお役にたつことになればと願っています。

この小冊子は、第1部として10講で構成しました。これからも項目を追加していきたいと考えています。会員諸氏からの忌憚のないご意見を賜わり、改定を重ねていきたいと思っています。

2011年5月31日  
編集者 矢野 忠

# 目次

## 第1講

鍼灸で“こり”がゆるむ・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

## 第2講

鍼で神経根性疼痛が和らぐ・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

## 第3講

鍼灸で血圧が下がる-高血圧の鍼灸治療・・・・・・・・・・7

## 第4講

鍼灸で過敏性腸症候群が改善する・・・・・・・・・・・・・・・・10

## 第5講

お灸で骨盤位(逆子)が治る・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

## 第6講

鍼で血管が新生される-閉塞性動脈硬化症(ASO)の鍼灸治療・・・・・・・・16

## 第7講

鍼は脳機能に様々な影響を及ぼす・・・・・・・・・・・・・・・・19

## 第8講

鍼灸でリラクックス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

## 第9講

皮膚に特別な経路(経脈)と部位(経穴)はあるのか  
-経絡経穴の研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

## 第10講

鍼灸治療はプラセボ効果ではなく、本当に効く・・・・・・・・・・28

